

皆さんの農場の胎盤停滯の発生率はどれくらいでしょうか。胎盤停滯の多くは産褥熱といわれる分娩後の発熱を引き起こし、子宮内膜炎へ移行すると繁殖障害など長期にわたって影響してしまいます。牛群内で胎盤停滯が目立っている農場ではいま一度理解を深め、その発生を減らしましょう！

【胎盤停滯とは】

分娩後に胎盤が剥離されず、母牛の子宮内に残ってしまうことをいいます。

胎盤は母牛の子宮と強固につながっており、栄養分や酸素を交換して胎子の発育に必要な環境を作っています。しかし母牛にとっては異物であるので、分娩後速やかに胎盤を排出して子宮を通常の環境に戻さなくてはなりません。具体的には分娩後 6 時間以内に胎盤が排出されなければ、「胎盤停滯」です(胎盤停滯は英語で Retained placenta と表記され、カルテでは RP と略されることも)。

【胎盤停滯の原因】

双子や死産、低 Ca 血症や代謝疾患など様々な要因が発生に関連しています。しかし健康な牛かつ正常な分娩であっても胎盤停滯は起こり、その発生率は 4%ほどあるという研究報告もあります。分娩後の子宮の収縮不足などが原因であるといわれていましたが、近年の研究では胎盤停滯の主な原因は子宮小丘と胎盤小葉の結合が切れない、“解剖学的”な理由によるものといわれています。胎盤停滯の発生に関連した研究報告をまとめ、特に関係性の強いものを大きく 4 つに分類しました。

- 分娩前の強いストレス
 - 過密や頻繁な移動など極度のストレスにさらされた牛は、副腎皮質ホルモンであるコルチゾールの分泌が増加し、より胎盤停滯を起こしやすい
- 低セレンと低ビタミン E (セレンとビタミン E は免疫システムの構築に必要不可欠な栄養)
 - 乾乳期に血中のセレンとビタミン E の濃度が低い牛は、より胎盤停滯を起こしやすい
- 分娩誘起
 - PG で分娩誘起した牛の約 8 割が 6 時間以内に胎盤を排出できなかった
 - デキサメサゾンによる分娩誘起も胎盤停滯を引き起こしやすい
- 近親交配や遺伝的な類似が多く認められる場合
 - 母牛と子牛の免疫の問題による



【胎盤停滯の発生率】

アメリカで複数農場合わせて約 1000 頭を対象に行われた試験では、約 30%の牛が 6 時間たっても胎盤を排出することができませんでした。その胎盤停滯を起こした牛のうち、約 15%が 1 日たっても胎盤が排出されませんでした(全体の 4.5%)。また、初産牛に比べ経産牛の方が胎盤停滯になりやすい傾向にありました。しかし農場ごとの発生率をみると、1%未満のところもあれば、50%近くの発生率のところもありました。大きく関係しているのはその農場特有の問題(飼養管理や衛生状況など)であることが示唆されています。

【繁殖への影響と目標とする発生率】

2002 年のアメリカの研究報告では胎盤停滞になってしまった牛は約 280 \$ / 頭のコストがかかるとするものもあり、そのインパクトは決して小さくはないでしょう。胎盤停滞を起こした牛は子宮の回復が遅く、初回授精の遅延につながります。その結果空胎日数の延長を引き起こす可能性があります。オレンジの表はその研究報告から、胎盤停滞になった牛の初回授精と空胎日数の平均延長日数を表しています。また、ブルーの表は農場における胎盤停滞の発生率の推奨値です。

胎盤停滞牛の平均の延長日数		胎盤停滞の発生率	
初回授精	17 日	推奨	8%未満
空胎日数	26 日	警告	10%以上

(ニューヨーク州牛健康保険プログラムの参考値)

【処置・治療】

いままでの話を踏まえると、胎盤停滞とは予防が第一の疾病であることがわかります。それでも胎盤停滞が起こってしまったらどう対処していますか。以下は補助的な処置として参考にしてください。

● Ca 剤の投与

- 子宮筋の収縮により胎盤が最終的に排出されるわけですが、分娩後の低 Ca 状態であれば十分に筋肉を収縮させることができません。治療が必要な牛は別として、経産牛であれば入熱予防も考慮し、分娩後に Ca 剤の経口もしくは皮下投与をおすすめします。

● 分娩後 2～4 時間後にオキシトシンを 1 アンプル(5ml)投与

- 単回もしくは数日間投与することで胎盤停滞の予防・治療効果があるとする報告があります(PG は分娩後ある程度日数が経たなければ効果がないといわれています)。

● 抗生剤・消炎剤の投与

- 分娩時に膣や子宮が損傷していれば、細菌感染し熱が上がってしまいます。分娩がスムーズでなかった牛はそれだけ胎盤停滞になりやすくなります。分娩後に発熱が認められるようであれば、抗生剤や消炎剤を早めに注射して状態の悪化を防ぐ必要があるでしょう。

● セレン・ビタミン E 剤の注射は？

- 乾乳期にサプリメントとして要求量を与えるのは大変重要ですが、治療としての効果はイマイチで、中毒を起こす危険性もあり注意が必要です。ちなみにアメリカで約 1100 頭の牛を対象に行われた試験では、「分娩予定の一週間前の牛にランダムでビタミン E を注射したが、胎盤停滞の発生には有意差はなかった」という結果が報告されています。

● 胎盤を引っ張るのは？

- 力を入れずにすると取れるようであれば、注意して引っ張ってもいいでしょう。しかし、奥の方でまだ強固にくっついている場合は無理やりに引っ張ることはやめましょう。強引に引っ張ると子宮を傷つけてしまい、状態を悪化させてしまうことにもつながります。

乾乳期のマネージメントが重要であると改めて認識させられた「胎盤停滞」。あなたの農場の発生率は？